(149) 栃木県那須黒磯の森・高林鉱山

高林鉱山については参考文献（１）が詳しい。これを引用したものと思われる参考文献（２）には、簡潔に記述がなされている。「・・・湯宮（ゆぐう）にあり、・・・塩原山地が那須の高原に移行する山裾に存在する。・・・鉱物成分としては黄銅鉱、方鉛鉱、黄鉄鉱及び石英など・・・」。参考文献（３）には、森鉱山は「湯宮にあって、部落西方３００ｍから４００ｍの海抜６００ｍの地点・・・鉱石は方鉛鉱・閃亜鉛鉱・黄銅鉱及び黄鉄鉱・・・」。ともに、湯宮にある鉱山である。鉱山名は変更される場合も多い。著者はこれらは同じ鉱山と判じて、以下では「高林」名を使用する。鉱石は崖錐中に鉱石の塊として産し、その塊の大きさは直径最大４０ｃｍ、平均２ｃｍから４ｃｍの記述がある。今までの鉱山とは違った鉱石の産出の仕方である。是非とも、鉱山跡を確定し、良い標本を採集したいと考え、何度か現地を訪問し、近傍を彷徨した。

何度目かの探査で、なだらかで幅の広い沢を登り詰めていった先に、砂防ダムを見つけた。その銘板には「井戸沢」の文字が記されていた。参考文献（１）の文中の「・・・井戸沢鉱・・・」と一致する。この沢こそ、高林鉱山のあった沢であると判断した。そう言えば、途中に小さい露頭鉱脈らしいのもあった。が、鉱山跡らしい様相は視認できていなかった。しかし、方鉛鉱がこびりついている小さい転石、黄鉄鉱の微粒の集まった小さい転石は採集できた。やはり、しっかりとした鉱山跡を確認し、良い標本も採集したいと考えていた。場所が違うのではないかということが頭にこびりついていた。

その後、他の鉱山の資料下調べをしている時、地質調査所がインターネットで公開している「地質Ｎａｖｉ」に辿り着いた。その結果、図４に示している湯宮近傍の地質図を入手した。湯宮の北に「高林鉱山」が明記されていた。井戸沢の左岸付近である。転石を採集した位置、露頭鉱脈を見つけた位置である。鉱山の現地はそこであると確信し、再度現地の探査に出かけた。結果、坑口跡を１つ確認できるとともに、幾つかのプラトー部分も確認した。良品の標本も採集することができた。が、廃石跡・ズリ跡は確認できていない文献（３）には「・・・廃石の量は４０００ｔ～５０００ｔ・・・」の記述がある。この多量と思われる廃石の場所がわからないのである。。機会があれば、再訪し、探査域を拡大して探査をしたい。

探査日　２０１７年７月８日その他

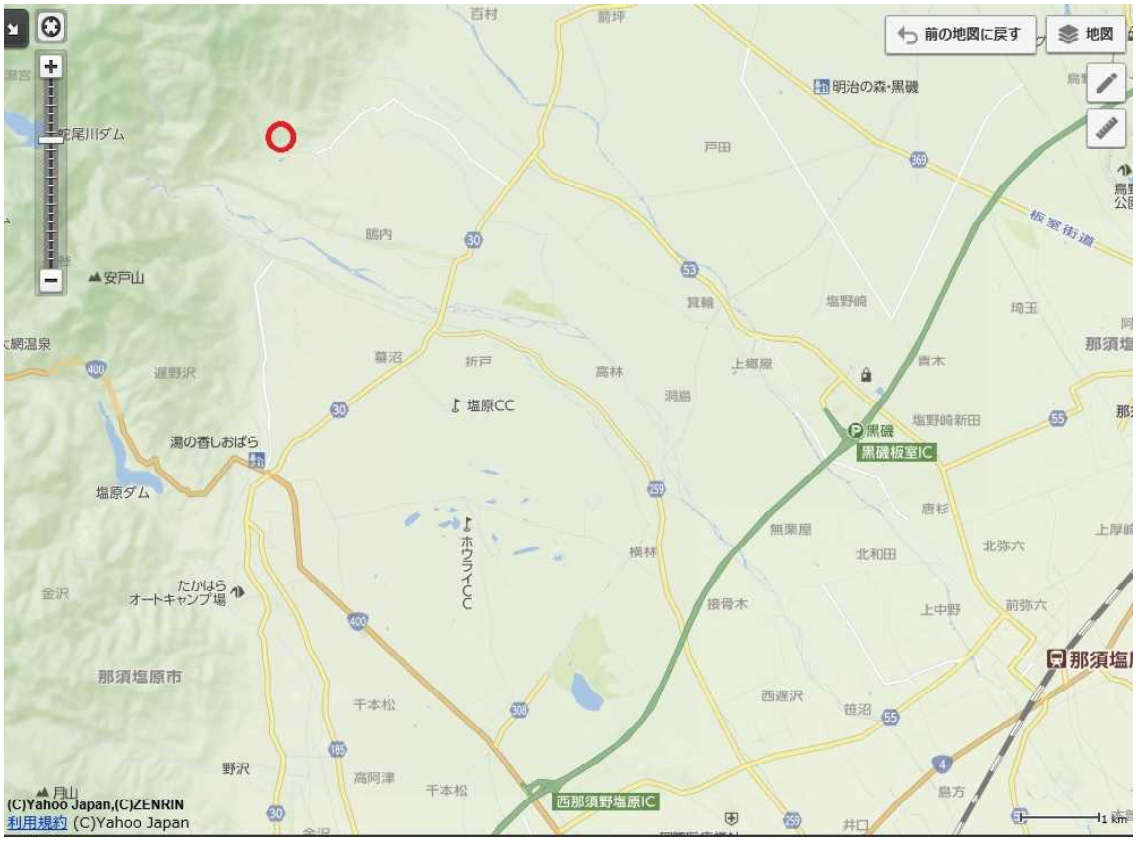

図１　左上付近の赤丸あたりが高林鉱山跡。西那須野黒磯ＩＣから、現地の湯宮まで信号が少ないので、車で３０分程か。

図２　中央上の赤丸が高林鉱山跡。ガーミンによる測地曲線を水色で道の駅からの経路を示している。鉱山跡は湯宮部落の北西の温和しい山地中にある。

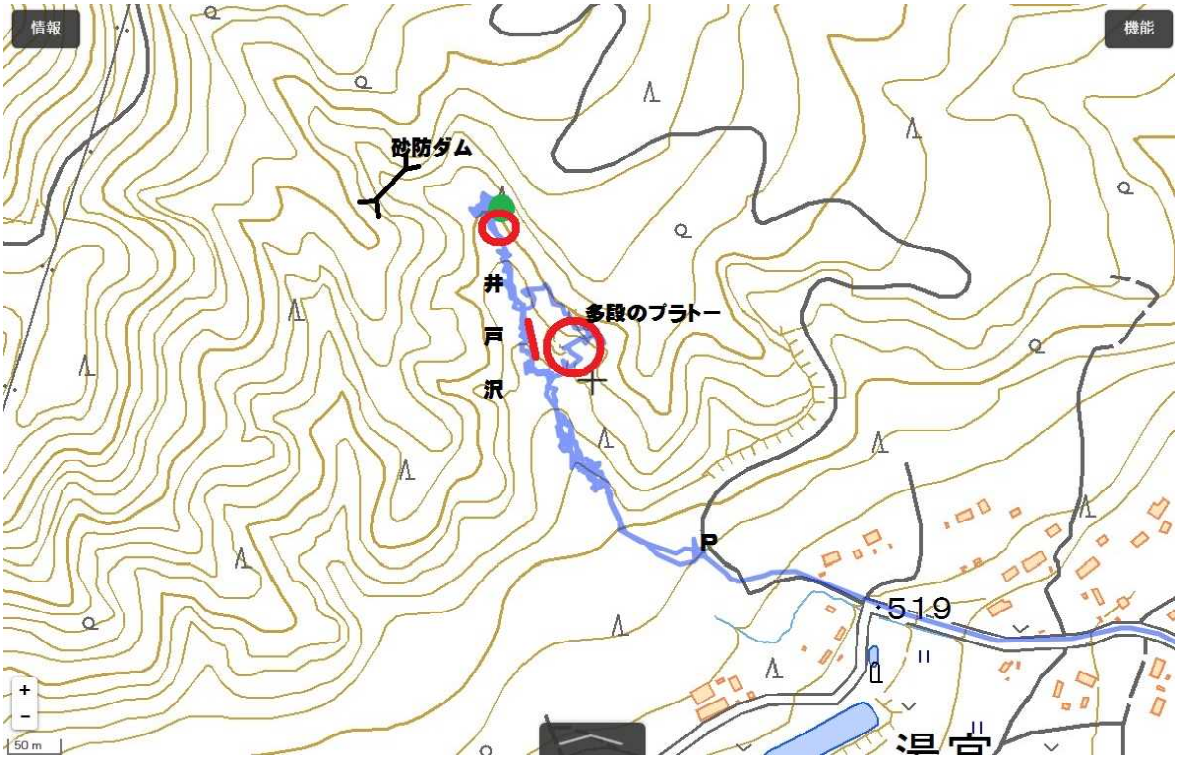

図３　図２の部分拡大図。・５１９の先には舗装林道が延びている。が、約２００ｍ先で、左側にある側道の林道に入って行く。Ｐ点付近。車は１台ならば、この入口付近に留め置けよう。なを、舗装林道を少し先に登っていくと、側路帯のある場所がある。黄緑丸が坑口跡、赤い線分が小さい露頭鉱脈。赤丸はプラトー。Ｐ点から歩いて林道を進む。大分先まで林道は生きている。沢は、等高線の間隔から読み取れるように、砂防ダム近傍まで広くなだらかである。

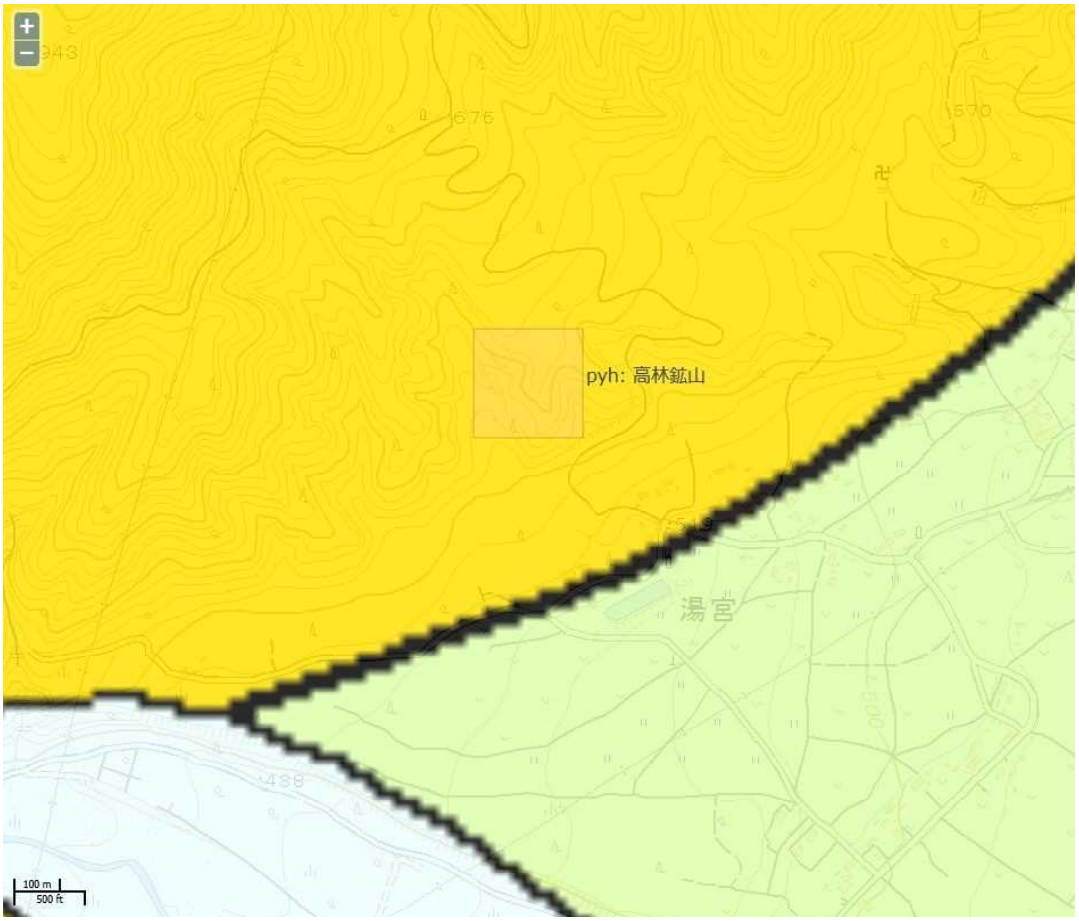

図４　地質調査所の「地質図Ｎａｖｉ」より。高林鉱山の位置が、正方形記号で明記されている。井戸沢の左岸にある。印刷などで見難い場合には、「地質図Ｎａｖｉ」みアクセスすると良いであろう。

鉱山跡写真

写真１　舗装林道を登ってきた。図３中のＰ点である。左に枝林道が延びている。ここから歩いて林道に入って行く。車の１台はここに止められるか。枝林道は車は入れるが、林道幅は狭く、大分先の奥まで車を停車させる余裕はない。

写真２　林道を歩いてきて直ぐに、この箇所に至る。右側に側林道が延びている。この方向に進んでいく。沢に沿っている。この当たりから、転石に注意していた方が良いかも。

写真３　林道を登り上がってきたら砂防ダムがあった。銘板に「井戸沢」の文字が記されていた。登ってきた沢は「井戸沢」であることが判明した。参考文献（１）には「井戸沢鉱」の単語がある。この沢の何処かに、鉱山があったと判断できる。貴重な手がかりであった。

写真４　小さな分流沢の一つにあった礫岩などで形成されている小さな露頭鉱脈。粘土、礫などから形成されている。微小な黄鉄鉱が散らばっている。

写真５　中央付近に左から右にプラトー。その先の中央付近の小さい黒い部分に坑口跡。落ち葉などでほぼ隠されている。

写真６　写真５に示した坑口跡に接近しての一枚。木々の茂った時期には見失うであろう。

写真７　写真６で示している坑口跡に、カメラを潜り込ませて撮った一枚。坑道は奥まで続いているようであるが、坑床は大分埋まっている。

採集鉱物

写真８　林道を歩いていて見つけた岩塊をハンマーで打つ。微小黄鉄鉱で染まっていた。

写真９　同じく林道を歩いていて見つけた岩塊をハンマーで一撃。方鉛鉱に富んだ礫であった。
この鉱山の主要産出鉱物であろう。

参考文献
（１）「塩原図幅地質説明書」、岩生、今井、地質調査所、昭和３０年。
（２）「日本地方鉱床誌　関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、１９７３年。
（３）「地質調査報告書　第２号」、栃木県、昭和２８年？